

2012年10月29日

関係各位

野村ホールディングス株式会社
コード番号8604
東証・大証・名証第一部

野村ホールディングス、2013年3月期第2四半期の連結決算を発表

野村ホールディングス株式会社(グループCEO:永井浩二)は、本日、2013年3月期第2四半期(2012年7-9月、以下「当四半期」)の連結決算を発表した。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は4,017億円、税前利益は354億円、同社株主に帰属する当期純利益は28億円となった。

また、同社の2013年3月期上半期(2012年4-9月、以下「当上半期」)の収益合計(金融費用控除後)は7,709億円、税前利益は551億円、同社株主に帰属する当期純利益は47億円となった。

2012年9月末を基準日とする配当の支払いについては、1株あたり2円とする。配当金の支払い開始日は2012年12月3日の予定である。

同社のグループCEOの永井浩二は、以下のとおりコメントした。

「第2四半期は、欧州危機に加え中国の景気減速懸念等も相俟って厳しい市場環境であったが、全ビジネス部門で税前黒字を計上し、グループ全体で税前利益の4四半期連続黒字を達成することができた。

営業部門は、コンサルティング営業のもとでの投信募集が堅調に推移し、グループ全体の利益に貢献した。アセット・マネジメント部門は、多様な顧客ニーズに則した商品提供と適切なコスト管理に努め、安定的利益水準を維持した。ホールセール部門も、欧州・米州・日本の各地域において前四半期比増収となり、部門としての黒字化を達成した。特に、フィクスト・インカムは2011年3月期以降で最大の収益を計上した。また9月に発表したエクイティ、インベストメント・バンキングを中心とした収益改善策も着実なスタートを切っている。

当社は、「アジアに立脚したグローバル金融サービス・グループ」として、今後も国内外のお客様に付加価値の高いソリューションを提供することで、社会の発展に貢献していく。」

当四半期決算および当上期決算のポイント

当四半期決算のハイライトは以下のとおり。

| | 2013年3月期 第2四半期 | 前四半期比 | 前年同期比 |
|-------------------|-------------------|-------|-------|
| 収益合計 (金融費用控除後) | 4,017億円 | +9% | +33% |
| 税前利益 | 354億円 | +80% | — |
| 純利益 | 28億円 | +49% | — |

- 当四半期の収益は 4,017 億円(前四半期比 9%増、前年同期比 33%増)、税前利益は 354 億円、当期純利益は 28 億円。
- 営業部門は、金利低下などにより債券販売は減速したが、投信募集買付が健闘した。
- アセット・マネジメント部門は、配当収入があった前四半期比では減収減益であったが、適切なコスト管理を継続して安定した利益水準を維持した。
- ホールセールは、米州、欧州、日本が前四半期比で増収、特にフィクスト・インカムが収益を牽引した。
- 当上半期の収益は 7,709 億円(前年同期比 22%増)、税前利益は 551 億円、当期純利益は 47 億円となった。
- 2012 年 9 月末における速報値で、自己資本比率は 17.2%、Tier 1 比率は 15.1%。2012 年 9 月末現在の B/S の資産合計は 35.4 兆円、株主資本は 2.1 兆円、グロスレバレッジは 16.9 倍、調整後レバレッジは 10.6 倍である。

当四半期の各部門の状況

● 営業部門

収益合計(金融費用控除後)は808億円、税前利益は110億円であった。

金利低下などにより、債券販売は前四半期比で減少したが、顧客ニーズに合致した幅広い商品ラインナップとコンサルティング営業の継続により、投資信託の募集買い付けは前四半期比で1%増と健闘、2四半期連続での投信純増となった。

株式も東証売買代金が前四半期比12%減少する中、募集買付額は前四半期と同水準であった。

残あり顧客口座は当四半期末で500万口座を突破し、顧客基盤は拡大している。

| | 2013年3月期 第2四半期(10億円) | 前四半期比 | 前年同期比 |
|-------------------|-------------------------|-------|-------|
| 収益合計 (金融費用控除後) | 80.8 | △2% | △4% |
| 税前利益 | 11.0 | △10% | +2% |

● アセット・マネジメント部門

収益合計(金融費用控除後)は154億円、税前利益は46億円、配当収入等があった前四半期と比較すると減収減益ではあるが、適切なコスト管理を継続し、安定した利益水準を維持した。

投資信託ビジネスは、野村証券を通じた販売チャネルでは、多様な顧客ニーズに応えた商品提供と販売支援を通じて引き続き資金が流入、銀行チャネルでの販売でも「野村新興国債券投信Aコース」の販売会社数が引き続き増加し、残高は前四半期末10%増と拡大している。

投資顧問ビジネスは、国内公的年金で資金が流出したが、海外ではハイ・イールド債やアジア株、日本株などの運用プロダクトで既存顧客を中心に着実に資金を獲得した。

| | 2013年3月期 第2四半期(10億円) | 前四半期比 | 前年同期比 |
|-------------------|-------------------------|-------|-------|
| 収益合計 (金融費用控除後) | 15.4 | △6% | △3% |
| 税前利益 | 4.6 | △15% | △3% |

● ホールセール部門

ホールセール部門の収益合計(金融費用控除後)は1,371億円、税前利益は2億円となった。

- フィクスト・インカムは各プロダクト、各地域がバランスよく収益に貢献して過去 9 四半期で最大の四半期収益を計上し、ホールセール部門の黒字化に貢献した。海外地域の顧客数や収益貢献も拡大している。
- エクイティは、市場の売買代金がグローバルに大きく低迷したため、顧客フローからの収益が減少した。9 月にアジア、欧州、米州で執行機能をインスティネットに移管するなどのビジネス再編を発表し、現在これを遂行中である。
- インベストメント・バンキングは、日本、欧州を中心に ECM 案件の収益が増加した。また、アジアを基点としたグローバルビジネスも、複数の大型 M&A 案件の獲得やアジア発行体の資金調達のサポート、アジア市場を活用したグローバル案件を執行するといった形で、成果が上がっている。当四半期の収益は前四半期比ならびに前年同期比で増収となった。

| | 2013年3月期 第2四半期(10億円) | 前四半期比 | 前年同期比 |
|-------------------|-------------------------|-------|-------|
| 収益合計 (金融費用控除後) | 137.1 | +12% | +68% |
| 税前利益 | 0.2 | — | — |

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(10月29日)午後6時30分より、決算説明テレフォン・カンファレンスを開催する予定です。この模様は、当社ホームページ(<http://www.nomura.com/jp/>)を通じてライブ配信いたします。

本資料は、米国会計基準による2013年3月期第2四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2012年10月29日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますので、ご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますので、ご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。